

NEWSLETTER

Genetic Nursing Committee in Japan

日本遺伝看護研究会

事務局：東京都中央区明石町
聖路加看護大学内

No. 9 2004年2月

昨年の活動を振り返って

当研究会も4回目の新年を迎えることになりました。一昨年より開催されるようになった研究大会も昨年秋の第2回大会では、演題数・参加者共に飛躍的な進歩を遂げることができました。これは、ひとえに会員各位がそれぞれの立場において、「遺伝看護」のサービスの向上に日々つとめた結果の現れではないかと思えます。そして、大会そのものが会員相互の情報交換となると同時に、お互いを高める場となりつつあるのではないのでしょうか。遅ればせながら、ご出席されなかった会員の方々に、第2回大会の様子をお伝えしようと思えます。

開催場所：

東海大学健康科学部2階(伊勢原校舎)

開催日時：

2003年9月20日(土) 9:50~16:40

参加者数：82名

プログラム：

一般発表演題 2セッション 12演題

当事者からの講演

パネルディスカッション

テーマ：

「遺伝医療チームに参画する看護職」

遺伝専門医の立場から

看護管理職の立場から

看護実践者の立場から

研究会当日は初秋にもかかわらずあいにくの小雨で、遠方から参加された方には、大山の紅葉の気配を楽しんで頂くこともできず残念でした。しかし、看護用品を応用してのテーブルクロスや農協で調達したテーブルフラワーが飾られたラウンジで「遺伝看護」を通じて顔見知りになられた会員の方と楽しく語らいを深めることができたのではないのでしょうか。一般研究発表は、12題と予想以上に多く、当初の予定発表時間を大幅にカットしての発表となってしまったことは、発表者・参加者共に多少の物足りなさを感じたのではないのでしょうか。研究会開催日程を2日間にするなど今後の検討課題も残された大会であったと思えます。

また、昨年は研究大会の他に、3回の学習会が開催されました。それぞれの学習会では実践を意識し、事例を通して出席者参加型の学習会が展開されました。また、12月には、遺伝における倫理的側面に焦点をあてながら学習を深めることができました。さらに、注目すべき事項としては、一昨年に発足された「遺伝看護専門看護職に関する検討委員会」が、医療機関および教育機関を対象に実施した「遺伝専門看護職者の雇用ニーズに関する看護管理者の考え」および「遺伝看護教育についての看護教育責任者の考え」に関する調査です。(調査結果に関しては、研究会HPをご参照下さい)ここで把握された「教育」と「臨床」の遺伝看護に関する考え方の相違を踏まえると、今後われわれ遺伝看護研究会が果たしていかなければならない役割が非常に大きいように感じられます。今年も心新たに、遺伝看護サービスの向上をめざして皆さんと共に頑張りましょう。昨年の第2回大会に参加されたお二人からのご感想を以下に掲載します。

**パネルディスカッションに
参加して**

日本医科大学付属病院 遺伝診療科
渡邊 淳

日本医大の渡邊です。先日行われた遺伝看護研究会では、話をさせていただく機会をいただき、溝口大会長をはじめ研究会の皆様ありがとうございました。発表でも少し話題に出しましたが、「遺伝学的検査に関するガイドライン」が平成15年8月に上梓されました(人類遺伝学会等のホームページでお読みいただけます)。新たなガイドラインには、「遺伝カウンセリング担当者は・・・遺伝看護師・・・の協力を求めチームで行うことが望ましい」と述べられています。さらに、この11/29には、全国の遺伝子医療を担う49大学病院によるはじめての会議「第1回全国遺伝子医療部門連絡会議」が東京で行われました。会議の話題としても遺伝医療における看護職の方の重要性・必要性が取り上げられ議論されました。いま、まさにそれぞれの遺伝医療部門において看護職の方が必要とされています。皆さんの職場でも、遺伝子医療部門を立ち上げようとしているところも多いと思います。ぜひ、参画に手を貸してください。遺伝医療においては、医療職だけではないさまざまな職種の方の交流が必要と感じています。遺伝関係の学会は人類遺伝学会や遺伝カウンセリング学会などがあります。来年京都で行われる遺伝カウンセリング学会でも「各専門職から見た遺伝カウンセリング」がテーマの1つになっていると聞いています。お時間がありましたら、ぜひ学会でのご発表・ご参加ください。そのときに私を見かけていただいたら、お声をかけいただけるとうれしいです。発表当日は、だいぶ上がってしまいあまり皆様と話すことができず残念に思っていました。なにかありましたらご連絡いただけますと幸いです。私自身今後も遺伝看護研究会に参加させていただきたいと思っています。日本医科大学付属病院遺伝診療科には、看護職が3人います。日本医大にもぜひ遊びに、(いや勉強

に)おいでください。3人ともども今後ともよろしく
お願い申し上げます。

第2回大会に参加して

三重県立看護大学 二村 良子

今年度の日本遺伝看護研究会大会は「遺伝医療チームに参画する看護職」というテーマで、12題の一般演題発表の第1部、第2部は当事者の声に耳を傾けて、第3部に「遺伝医療チームに参加する看護職」についてパネルディスカッションが行われるという、内容がとても幅広く、充実したものでした。第2回大会でこのようにたくさんの方たちからの発表があり、また、遺伝における看護の役割についてさまざまな視点からの取り組みがあるということについて、とても遺伝看護研究会が1年、1年大きくなっているのを実感いたします。また、このような充実した内容の大会となるには、第2回大会の事務局の方をはじめ、多くの方たちの事前のご準備があつてのことと感じました。会場設定にもたいへん細やかなお心遣いがあり、とても気持ちよく大会に参加することができましたことを感謝いたします。皆様の発表を聴いていて、日々のクライアントとの関わりの中で、どのようなことが問題となっているのかがよくわかり、自分自身の遺伝に対する問題意識・課題が少し見えてきたように感じました。私が住んでいるところでは、遺伝についている相談を行ったりするような機関・施設がないのが現状ですが、実際には多くの方が、遺伝に関する問題で悩んでいらっしゃるのではないかと想像できます。今は、県内の現状を把握し、どのような援助が求められているのか、どのようなネットワークができるのかということ、真剣に取り組む必要性を感じています。また、研究会の皆様にはいろいろな点でご相談させていただくことがあるかもしれません。その時は、よろしく願います。

関西で待望の遺伝看護研究会大会が開催される運びとなりました。

日程的には先のことではありますが、一人でも多くの会員の皆さんにご参加いただきますよう、今から予定に入れて頂ければと思います。今回は、初回大会から熱心にご参加頂いております公立学校共済組合近畿中央病院の看護部の皆さんを中心に、関西地方の会員の方々のご協力のもと近畿中央病院講堂を会場として、2日間に渡っての開催となります。すでに、本間可南子看護部長を大会長として、大会企画運営委員会が発足し、着々とその準備が進められております。大会のコンセプトは地域連携を考慮し、患者、家族、行政、医療、福祉の立場から、現状と抱えている問題を報告し合い、幅広い意見交換ができることとしています。

下記のその企画内容を掲示しますので、是非ご参加ください。

関西で！遺伝看護研究会 第3回大会の開催決定

大会テーマ：それぞれの立場における遺伝医療の連携
- 保健、医療、患者・家族の立場から -

日 時： 第1日目 平成16年9月18日(土) 13時～16時
第2日目 平成16年9月19日(日) 9時30分～15時

場 所： 公立学校共済組合近畿中央病院講堂

プログラム：

第1日目 講演 「遺伝医療の現状と将来展望」
一般演題発表 セッションA(6題) 質疑応答
第2日目 一般演題発表 セッションB(6題) 質疑応答
講演 「それぞれの立場における遺伝医療の連携」
- 患者を支える立場から -

フリーディスカッション

「それぞれの立場における遺伝医療の連携」
遺伝医療チームの看護職の立場から
地域連携を担う医師の立場から
保健行政の立場から
患者家族の立場から

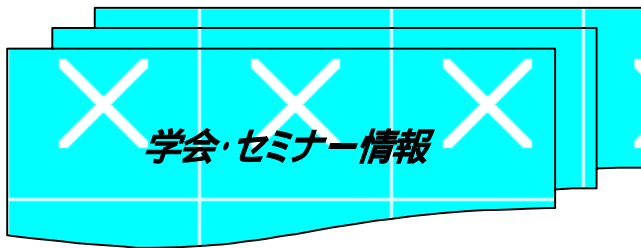
問い合わせ先：公立学校共済組合 近畿中央病院看護部

Tel 072 - 781-3712 (代表) e-mail : yamamoto_t@kich.itami.hyogo.jp

また、第3回の大会の前に、第20回公開学習会を3月20日(土)午後1時より、近畿中央病院で「染色体検査に関わる遺伝カウンセリング - 染色体異常で第1子を亡くした夫婦の事例から 」のテーマで開催します。

この学習会に関しては、近日中にHPにその詳細を掲示しますので、ご確認下さい。

尚、第3回大会に関する一般演題応募・大会参加等に関しては、6月頃に詳細を大会企画委員会より会員の皆様にお知らせする予定であります。事前に大会に関するお問い合わせを希望される方は上記までご連絡下さい。



第5回周産期遺伝医療懇話会

日時：2004年2月20日【金】19:00 21:00

会場：国立成育医療センター 1F 講堂

(小田急線成城学園前下車、渋谷行きバスにて
成育医療センター前下車)

参加費：無料

プログラム

ディスカッション：テーマ「血友病の遺伝カウンセリング」

症例提示：血友病の出生前診断が問題となった双胎妊娠

演者：林聡、左合治彦、名取道也、田村智英子、
三原喜美恵、小須賀基通、奥山虎之
(国立成育医療センター)

講演：「遺伝カウンセリングにあたって知っておきたい

血友病の診断・治療の現状と将来について」

演者：花房秀次(荻窪病院)

(担当幹事：横浜市立大学医学部産婦人科学教室平原史樹)

045-787-2689(直通、ファックス・留守電兼用)

e-mail: hirafu@med.yokohama-cu.ac.jp

第28回日本遺伝カウンセリング学会

日時：2004年5月7日(金)午後～9日(日)

会場：京都市リサーチパーク

(京都駅よりJR山陰線で丹波口下車徒歩5分)

参加費：8000円

プログラム

シンポジウム1「みんなで作り上げる遺伝カウンセリング」

シンポジウム2「医療の場における心理臨床」

特別講演：松沢哲郎(京都大学霊長類研究所教授)

「チンパンジーの親子のきずな：誕生から4歳まで」

教育 講演：宇都宮讓二(家族性腫瘍研究会会長)

「日本における家族性腫瘍診療の歩み」

学会事務局：京都大学医学部附属病院 遺伝子診療部

小杉眞司

Tel：075-751-3503(直通)

e-mail：kosugi@kuhp.kyoto-u.ac.jp

平成16年 日本家族計画協会 遺伝相談センター主催遺伝関連セミナー予定

第24回遺伝カウンセリングリフレッシュセミナー

6月19日(土)20日(日)

第32回遺伝カウンセラーセミナー(基礎講座)

7月22日(木)～25日(日)

第6回 遺伝カウンセラーセミナー(実践講座)

8月19日(木)～22日(日)

第30回コメディカル遺伝カウンセリングセミナー

8月5日(木)～8日(日)

第28回コメディカル遺伝カウンセリングセミナー

12月5日(木)～5日(日)

問い合わせ先

日本家族計画協会遺伝相談センター

Tel 03-3267-2600 Fax 03-3269-6294

編集後記：1月に発行された月刊ナーシング新春特別企画「これからどうなる？」の「遺伝看護の役割」はすでにご覧になりましたか。研究会メンバーによる執筆ですので是非ご一読下さい。また、編集室より「興味をもったテーマ」に挙げて下さっている読者が多いとの連絡を頂きました。本当にうれしいことですね。今後も一人でも多くの看護職の方々に、遺伝看護への興味・関心を持っていただけるように研究会一同頑張ります。

*今年は役員選挙の年ですので、住所変更のある方は事務局までご連絡下さい。(エディター担当：横山)

